

社協だより

こころ

・KOKORO・

手と心
つないで築く
京丹後

第108号
令和7年11月25日発行



体験を通しての学び (大宮中学校 福祉学習)

● 目 次 ●

P2～P3 地域で育む

P4～P5 福祉出前講座の紹介

P6 健やか生きがい教室

P7 社協の生活支援

P8 お知らせ



地域とのつながりが心を育む



誰もが地域で幸せを感じながら暮らしていくためには、一人ひとりが自立することに加え、地域全体で連帯感を育み、支え合いの意識を高めることが大切です。そのためには、大人になってからではなく子どもころから地域福祉の活動に接し、また参加する機会を設けるなど、地域の中での福祉活動を広げていく必要があります。

今回は、高校生の学びを中心に、わかものが地域とつながりながら学ぶきっかけを提供している「roots」と、総合的な学習の時間に福祉学習に取り組み、生徒が福祉事業所と連携したフィールドワークなどを行っている久美浜中学校の取り組みを紹介します。

「やってみたい」を通してつながる地域 roots

チャレンジを応援

京都府立峰山高等学校の近くに、京丹後市の未来チャレンジ交流センター「roots」があり、主に高校生やわかものの「知りたい」「やってみたい」を応援しています。また、いくつになっても自分が若者だと思えば、「わかもの」との考えから、年代を問わず相談を受けています。



丹海峰山 30 番街の 1 階にある roots

「roots」は、高校生が地域とつながり、地域のひとと一緒に活動するなど新たなチャレンジをすること、将来のキャリア形成につながるよう支援するため 2020 年に設立された施設です。

そして進学や就職で地元を離れても、故郷を思う時に地域の中で生き抜く力、方法を見つけられるよう支援する場所です。

きっかけの場所

「roots」は、高校生やわかものの「知りたい」「やってみたい」を通して、社会人や学生、区長、そして地域の担い手といった様々な人たちとの交流の場となっています。

年齢や性別、仕事など、これまで全く違う人生を歩んできた人たちと話す中で、自分とは異なる暮らし方や楽しみ方など、普段なかなか知ることのできない新たな気づきを得られる場所でもあります。

roots の取り組み

「roots」では、高校の「探究学習」と連携して高校生の「やってみたい」を実現するために、地域の担い手や福祉施設、学問の研究者など、人や資源をつなぐことで活動を応援してきました。

過去には、興味のある分野の専門家と高校生をつないだり、廃校利用を考えた生徒と地域の担い手である区長や大人たちをつなぎ、廃校を利用したカフェや写真展、音楽ライブなどを行いました。

居心地の良い場所

「roots」のスタッフは、高校生やわかものの「学びの一步」を支えるため、居心地が良く安心して、自分らしく過ごせる場所を提供しています。

以前、福祉の相談支援者から「編み物の得意な高齢者を集めた居場所をつくりたい」という相談があり、「roots」を編み物でつながる場として開いたところ、高校生も参加する交流の場へと広がりました。



企画について検討するスタッフ

スタッフからは、「自分たちが先生や相談員といった専門職ではないからこそ、利用者や生徒と等身大で関わることができる」との話がありました。

「roots」では、これからも高校生やわかものなど幅広い年代が、その人らしく過ごせるきっかけづくりに取り組みます。

地域とのつながりを学ぶ／久美浜中学校福祉教育の実践／

福祉を学ぶカリキュラム

久美浜中学校では、3年生の総合的な学習の時間に「福祉学習」があり、1年間を通して福祉についての学びを深めています。その中でも、京丹後市は「長寿のまち」ということもあり、その視点にも合わせながら高齢者福祉を中心に学習しています。

地域を基盤とした実践例

久美浜中学校では今年度、「より良い生き方 地域を目指して 私たちにできること」をテーマに福祉学習に取り組みました。

夏休みには、生徒が住んでいる地域の高齢者にインタビューを行い、日々の生活のことや困りごと、将来どんな地域になって欲しいと思うているのかなど高齢者の思いを聞き取りました。

また、認知症サポーター養成講座で認知症について学んだり、車

いす体験や高齢者擬似体験を通して加齢による身体機能の変化や思いについて学び、福祉施設での実践でさらに理解を深めました。

昨年は、区長に協力を依頼して地域からのボランティアニーズを募集し、地域に貢献できるボランティア活動を計画する中で、地域の祭りの手伝いや公民館の掃除、近所の高齢者の畑の手伝いを行いました。

生徒会の活動

久美浜中学校では、生徒会を中心にSDGsの達成に向けた活動に取り組んでいます。アルミ缶を集め、その収益で地域の高齢者施設や就学前施設、福祉施設へ体温計や絵本などを寄贈、ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを提供する活動に賛同したり、子どもたちが着なくなった子ども服を回収して難民支援活動に提供するなど取り組んできました。

アルミ缶集めは、生徒の登校日に学校の昇降口で回収を行っています。地域の人にもそれに合わせてアルミ缶を持ってきます。

地域を基盤とした実践が、身の回りの小さな課題に気づき、解決のため自分たちにできることを見つける力を養うことにつながっています。



生徒の夏休みの取組を語る木村先生と栗倉先生

ともに生き広げる「わ」 福祉出前講座

本会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしている共生社会の実現を目指し、地域福祉を考えるきっかけとして福祉出前講座を行っています。

小・中・高等学校の福祉学習や人権学習では、福祉に関する講話や体験学習を行っているほか、地域やサロン、事業所等が行う学習会にも出向いています。多様な価値観を認め合うとともに他者を思いやり、お互いを助け合える地域づくりのヒントを福祉出前講座で伝えていきます。

体験を通して学ぶ福祉学習

本会では、大宮中学校から依頼を受け、10月30日に3年生を対象に、高齢者擬似体験と車いす体験、アイマスク体験などの福祉出前講座を実施しました。

高齢者擬似体験では、ゴーグルや耳当て、手袋、肘や膝を拘束す



白内障や視野障害を擬似体験中

るサポーターを装着し、見え方や聴こえ方、手の感覚や関節の動きの変化を体験しました。

介助を行う際は「思いやり」や「気遣い」が大切であることを伝え、生徒たちは互いに声をかけ合いながら優しく介助を行っていました。

生徒からは「老化により動作や感覚が変化し、さまざまな動きが難しくなることが分かった。」「介助は自分自身の感覚と違い、想像以上に大変だと感じた。」といった感想が寄せられました。

今回の講座を通して、生徒たちに高齢者等への理解を深め、思いやりの大切さを伝える機会となりました。

出前講座の活用

今年度、多く利用されている講座の一つに「防災・減災」に関する講座があります。

「防災・減災」の講座では、地震や台風・大雨などの自然災害に対する備えの工夫や避難所での過ごし方など、社協の災害支援の活動を通して日ごろから自分たちで出来ることを、写真やイラスト、クイズ等で分かりやすく伝えていきます。



峰山町吉原地区地域づくり協議会防災クッキング

その他にも、認知症についての理解や声のかけ方を学ぶ認知症サポーター養成講座もあります。認知症の基礎知識や認知症の人の思い、また家族の思いを伝え自分たちにできることを一緒に考えます。

また、自分自身の終末期の迎え方や死後について考え、判断や意思決定をすることが難しい状態でも、自分らしく生きるためのヒントを伝える終活講座もあります。

その中で、自分の考えや家族への思い、そして自分の意思を伝えるための、エンディングノートの作成も紹介しています。

本会の福祉出前講座では、依頼者の希望を聞き、テーマや日時、講座の所与時間など、できるだけ意向にそった内容の講座が行えるよう調整しています。

また、出前講座とは別に福祉体験用の機材（車いす、高齢者擬似体験グッズ）やレクリエーショングッズ（輪投げ、モルックなど）の貸し出しを行っているほか、福祉活動の企画相談も実施しています。



社協職員による 福祉出前講座



	テーマ	内容
福祉	福祉って何だろう？	「福祉って何だろう？」という疑問について考え、福祉についての理解を深めます。
まちづくり	福祉 de まちづくり	地域福祉を充実させるための計画である「第4次地域福祉活動計画」の内容を共有し、地域にどのような福祉が必要か考えます。
	ちょっと気なるボランティア	ボランティアセンター事業や災害ボランティア活動の紹介をとおり、身近にできるボランティア活動について考えます。
	知って備える防災・減災	非常用簡易トイレの使い方や非常用持ち出し品の内容など、災害時に命を守る備えについて考えます。
	ご近助支え合いマップづくり	見守り、見守られる関係や福祉情報等をマップにし、情報の見える化を図ります。
高齢・障害者等支援	安心生活サポート講座	判断力が十分でないかたの、福祉サービス利用や日常の金銭管理をする「福祉サービス利用援助事業」や「家計支援」について紹介します。
	楽しく介護予防	介護予防の取り組みである「健やか生きがい教室」の機能や内容について体験を交えて紹介します。
	心でつなぐ、地域でつつむ認知症講座	認知症を正しく理解し、できることを一緒に考えます。認知症サポーター養成講座も可能です。
	高齢者擬似体験講座	擬似体験グッズを使用して高齢期にあられる身体の変化を知り、高齢者に対する理解を深めます。
	未来と今を生きる終活講座	エンディングノートに自分の希望や想いを書き残し、最期まで自分らしく生きるためのヒントを伝えます。
交流	レクリエーションの楽しみ方	対象者に応じて楽しむことのできるレクリエーションを体験しながら紹介します。



制作に夢中になる親子

新

レクリエーショングッズの紹介

本年度、工作ボランティア・山本氏の指導のもと、市内の小学生とともに、室内用紙製モルックを制作しました。

室内でも安心して楽しめる仕様となっていますので、是非、ご利用ください。



軽くて安全「かるっく」と命名

網野町で 「健やか生きがい教室」はじめました

今年は、団塊の世代が全て75歳以上となり、後期高齢者の人数が国民の5人に1人となる「2025年問題」の年です。しかし、後期高齢者の人数が問題ではなく、その人たちが健康な状態にあるのかが重要なことです。

京丹後市では、介護を必要とする高齢者に比べ、一部介護を要するものの自立した日常生活のできる高齢者の割合が増加傾向にあります。これは、健康維持や介護予防に対する市の長年の取り組みが実を結んでいるとも言えます。

その中で、本会が市の委託事業として大宮町、丹後町、久美浜町で実施している「健やか生きがい教室」も、楽しみながら仲間とともに運動を続けることで介護予防となる事業のひとつであり、本年10月から網野町でも実施することになりました。

網野町の「健やか生きがい教室」は半日型で、約2時間のサービス

提供なので、1日家を空ける必要もなく、家事や趣味活動などに支障はありません。

また、定期的に理学療法士や管理栄養士、そして歯科衛生士などの専門職の講座も予定しており、個別相談にも対応します。

利用の範囲

利用できるのは、要支援1・2の認定を受けている人、または65歳以上で食事や運動、家庭や社会での役割を総合的にみて、心身機能が低下しており介護予防が必要であると、市の地域包括支援センターが判断した人となります。

相談窓口

京丹後市地域
包括支援センター

電話 69-03330

基本的なサービスの流れ

迎え

送り

毎週金曜日
13:30 ~ 15:30

会場：下岡区公会堂
(網野町下岡 676)

*希望者に送迎あり

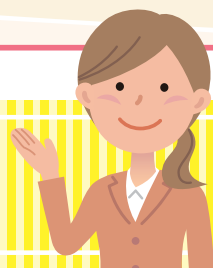
利用料：250円
(お茶代含む)

血圧測定
健康チェック

レクリエーション
趣味活動
(手作業)等

運動・体操

生活の不安に寄り添います まずは相談を！



生活福祉資金

「一時的な出費で世帯の生計が困難に・・・」「失業などによって生活の立て直しが・・・」

こうした日常生活の困り事は、**社会福祉協議会**に相談してください。本会が取り扱う生活福祉資金が利用できないか、また生活状況に合わせた支援策と一緒に考えるほか、相談内容によっては関係機関へのつなぎや他の制度の紹介なども実施しています。

教育支援資金

～進学を夢をあきらめないで
教育支援資金であなたの未来への夢を応援します～

教育支援資金とは、低所得世帯のこどもが高校や大学等への進学に際し、入学時に必要な経費や在学中に必要な費用を貸し付け、就学を支援する制度です。合格発表前の申請も可能です。



支援内容

就学支度費 … 入学金・下宿準備費用など入学時のみ支払う必要のある経費
教育支援費 … 在学中に必要な授業料や教科書代などの経費

なお、貸付には貸付条件や審査があるほか、日本学生支援機構（JASSO）、京都府高等学校等修学金、母子父子寡婦福祉資金等の他の公的貸付制度の活用を優先し、それらの借入ができるまでの「つなぎ資金」として貸付します。

コロナ特例貸付を受けられた方へ

～生活の困りごとを整理し適切な解決策と一緒に考えます～

本会では、コロナ特例資金貸付を受けられた方が安心して暮らせるように、あったか京都・寄り添いワーカーを配置してさまざまな生活の困りごとに関する相談に応じています。ひとりで抱え込まずに、コロナ特例専用ダイヤルまでご連絡ください。

コロナ特例専用ダイヤル：090-3273-1090



フードパントリー

～人から人へ想いをつなぐ～

社会福祉協議会では、個人や企業等から寄付していただいた食品や日用品を、生活に困っている世帯に無償で提供するフードパントリーを実施しています。



対象世帯 … 生活に困窮している世帯、食品や日用品の入手が困難な世帯

提供物資 … お米や麺類、レトルト食品、缶詰などをお渡しします。

※提供回数には制限があり、在庫状況によってはお渡しする品物の種類が変わる場合もありますのでご了承ください。年末に行っていた物資提供は実施していません。

相談窓口：京丹後市社会福祉協議会本所又は各支所窓口

問合せ先：0772-65-2100（本所）



善意のご寄付

あたたかいお気持ちをいただき、ありがとうございました。
(令和7年9月1日～令和7年10月31日受付分)

やさか老人保健施設ふくじゅへ

匿名 様 (弥栄町) 30,000 円 亡父 様

地域福祉事業へ

株式会社ベルマリエ様 (通算 231 回目) 6,000 円

匿名 様 (峰山町) 1,000 円

匿名 様 (久美浜町) 100,000 円

ホールインワン基金を寄付

大宮町グラウンド・ゴルフ協会様 3,400 円

第107号(9月発行)の「お知らせ記事」(P 8)において、寄付者の氏名に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正いたします。

京丹後市グラウンド・ゴルフ協会

【誤】会長 川堂 憲雄 様

【正】会長 川童 憲雄 様

釣銭の一部を寄付

小市郎商店お客様(丹後町間人)
1,806 円

網野デイサービス・久美浜訪問介護

利用者アンケート結果

利用者及び家族のご意見を参考に、サービス向上を図るため毎年アンケートを実施しています。その結果は、本会ホームページで紹介します。



雪下ろし助成事業のお知らせ

市の雪害対策本部未設置期間に、業者による雪下ろしを行った対象の世帯に対し、一部費用を助成します。



対 象 雪下ろしができない人がいない高齢者世帯及び障害者世帯、またこれに準ずる世帯であり、区長が支援を必要と認めた世帯。

助 成 額 上限10,000円
問合せ先 本所又は各支所

市内中学生対象

『制服リユース事業』 寄付・譲受受付のご案内

成長や破損により新たな制服等が必用な生徒に無償で提供しています。

寄付・譲渡の対象物

現行モデルの

制服・体操服・柔道着

これまでに寄付で集まった制服、柔道着等があります。希望される人は、各支所へお問い合わせください。

京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅへ

福祉車両と遊技台の寄贈

9月9日に、公益財団法人京都新聞社会福祉事業団から京都新聞「オーシャン号」の車両寄贈を受けました。今後は、通所リハビリの利用者の送迎や季節行事の外出等に使用します。日本伝統文様「青海波(せいがいは)」をモチーフにしたデザインが、京丹後の町中を走り抜けます。



日本伝統文様「青海波」が描かれた車両

平成26年に寄贈され、入所者に愛用されていた遊技台(パチンコ)が故障し、9月3日に株式会社マルハン西日本カンパニーマルハン峰山店から新たに新台が寄贈されました。



寄贈遊技台で楽しむ利用者

発行／社会福祉法人 京丹後市社会福祉協議会

〒627-0111 京都府京丹後市弥栄町溝谷 3464 TEL 0772-65-2100 FAX 0772-65-3294
http://www.kyoshakyo.or.jp/kyotango E-mail: info@kyotango-shakyo.jp
FB アドレス https://www.facebook.com/kyotangoaitan
Instagram アドレス https://www.instagram.com/kyotangoshakyo
京丹後市やさか老人保健施設ふくじゅ専用 HP https://yasaka-fukujyu.jp/

峰山支所 (市峰山庁舎2号館内 TEL62-4128)
大宮支所 (市大宮福祉会館内 TEL64-2037)
網野支所 (網野健康福祉センター内 TEL72-0797)
丹後支所 (市丹後庁舎内 TEL75-0808)
弥栄支所 (市弥栄庁舎内 TEL65-2100)
久美浜支所 (市久美浜庁舎内 TEL82-0008)